

国指定  
文化財

# 岩井堂洞くつ

岩井堂洞くつは、秋田県と山形県の県境、雄物川の最上流に合流する雄勝川右岸に所在する縄文時代の洞くつ遺跡である。史跡は約80mに及ぶ凝灰岩の露頭に大小4カ所の洞くつ（第1～第4洞くつ）が並んでおり、いずれも縄文時代に住居として利用され、各洞くつ及び前庭部に遺物の包含層が形成されており、昭和53年までに秋田県教育委員会の協力のもとで実施された調査では、深さ8m、第11層から第14層まで確認されている。

この遺跡の特色は、縄文時代早期の土器から弥生土器・土師器にいたるまで層位的に遺物が出土したことである。なかでも、これまで東北地方ではほとんど出土例がなかった縄文早期の押型文土器がまとまって出土したことや、県内で初めて縄文早期の尖底土器が発見されたことは学術上重要な資料となっており、これらの学術的価値を持つ重要なものとして、昭和53年に国指定史跡となった。なお、第4洞くつは風化が進みつつあるため、埋め戻し保護され、59年・60年の環境整備により完全に地下に埋もれてしまっている。



▼現在の岩井堂洞くつ



▲埋める以前の第4洞くつ



▲押型文土器



▲尖底土器



## ご利用のごあんない

開館時間 午前9時～午後4時30分  
休館日 毎週月曜日※ただし、月曜日が祝日の場合は火曜日休館  
年末年始 (12月29日～1月3日)  
入館料

区分	個人	団体 (20人以上)
大人	320円	200円
中学生以下	210円	150円

## 湯沢市の主な観光行事

- 小町まつり 6月第2土曜日
- 七夕絵どうろうまつり 8月5・6・7日
- 雄勝大花火大会 8月8日
- 仮装盆おどり大会 8月21日
- 大名行列 9月第4日曜日
- 院内銀山まつり 9月21日
- 犬っこまつり 2月第2土曜日とその翌日

## ◆ お問い合わせ先 ◆

**院内銀山異人館**  
〒019-0111 秋田県湯沢市上院内字小沢115番地  
TEL・FAX 0183-52-5143  
**湯沢市教育委員会 生涯学習課 文化財保護室**  
〒012-8501 秋田県湯沢市佐竹町1番1号  
TEL 0183-55-8193 FAX 0183-72-8515

# 院内銀山の概要

院内銀山は、慶長元年(1596年)平鹿郡薄井村七郎左衛門発見という古い伝承があるが(慶長7年ともいう)、記録としては『院内銀山記』(慶長11年(1606年)村山宗兵衛発見)が最初である。それによれば、秋田藩は発見の翌年から採掘に取りかかり、山峡に大鉱山町が出現したという。当時の人口2万人、産銀高5333貫(約2万kg)以上の説もある。

しかし、乱掘の結果衰退に陥り、享保10年(1725年)民間に請け負わせ、その後直営と請負を繰り返したが、文化14年(1817年)再び藩の直営として明治維新まで続いた。

天保4年(1833年)から14年まで産銀高が1000貫を超え、日本一の[天保の盛り山]時代になったが、幕末期には再び衰退した。

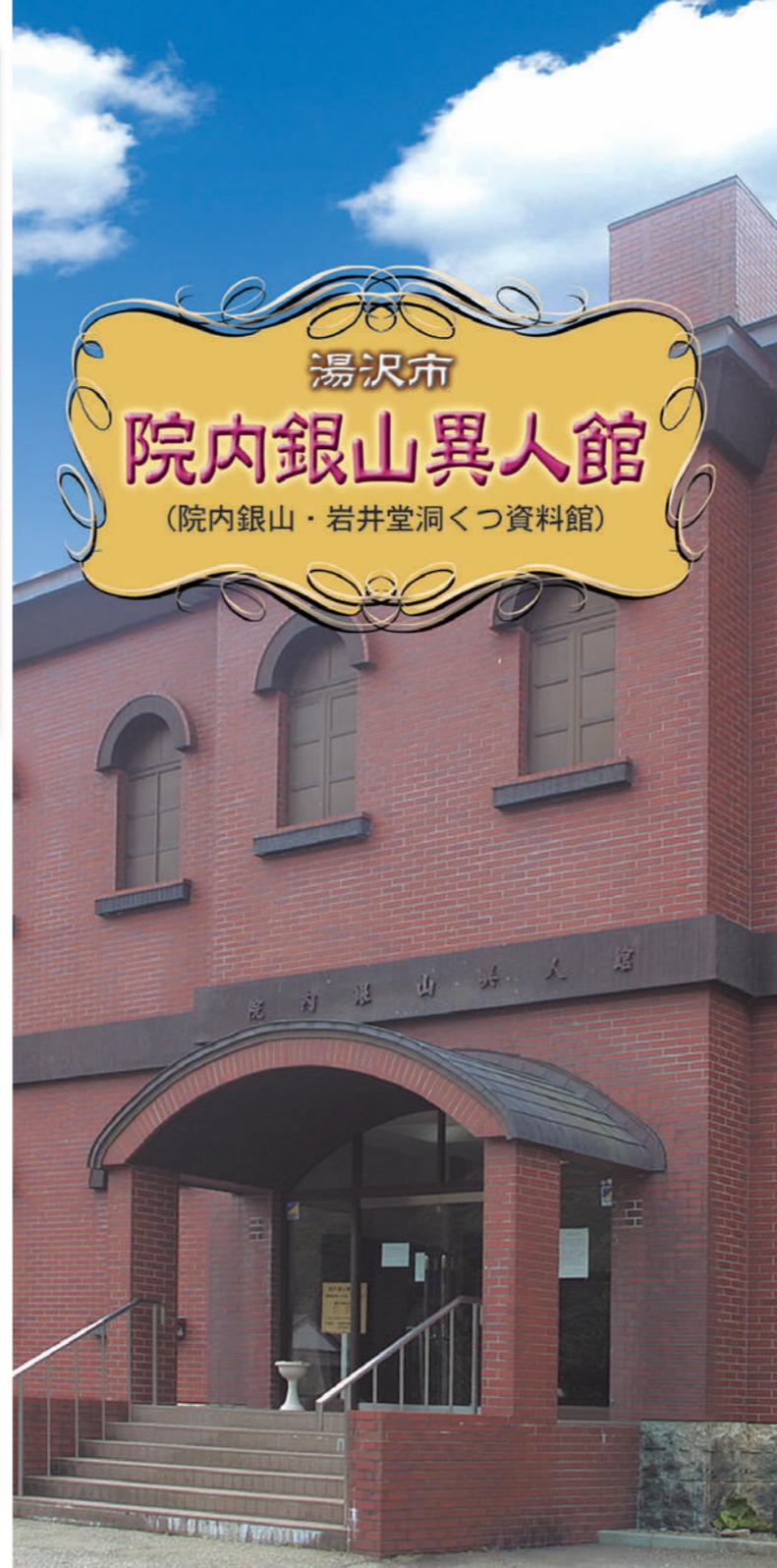
明治4年(1871年)院内銀山は新政府の管轄となり、5年には民間に委託したがうまくいかず、8年に工部省の管理となり、12年からはドイツ人技師の来山と外国技術の採用により近代化を進めた。しかし鉱況は振るわず、15年には一時操業中止にまでなった。

明治18年に古河鉱業に払い下げとともに、発展の一途をたどり、28年頃は年産4000貫(1万5千kg)前後の産銀高となり、この年を中心にして前後10年以上日本一の座を占めた。

しかし鉱脈の掘り尽くしや鉱況の低下、事故等により不振の道をたどり、大正9年(1920年)年には坑道を閉鎖して事実上の閉山となり、昭和29年(1954年)に完全に閉山し、約350年の歴史に終止符を打った。



明治時代の銀山町



慶長 一年	一五九六	寛永 一年	一六二四	貞亨 三年	一六八六	享保 十年	一七二五	安永 三年	一七七四	文化 十年	一八一三	十四年	一八一七	文政十三年	一八三〇	天保 四年	一八三三	六年	一八三五	九年	一八三八	十年	一八三九	文久 一年	一八六一	四年	一八七二	明治 四年	一八七二	五年	一八七二	七年	一八七四	八年	一八七五	十二年	一八七九	十四年	一八八一	十八年	一八八五	二十二年	一八八九	二十六年	一八九三	二十八年	一八九五	三十年	一八九七	三十三年	一九〇〇	三十九年	一九〇六	四十年	一九〇七	大正 九年	一九二〇	昭和 十年	一九三五	二十九年	一九五四
-------	------	-------	------	-------	------	-------	------	-------	------	-------	------	-----	------	-------	------	-------	------	----	------	----	------	----	------	-------	------	----	------	-------	------	----	------	----	------	----	------	-----	------	-----	------	-----	------	------	------	------	------	------	------	-----	------	------	------	------	------	-----	------	-------	------	-------	------	------	------

銀山閉鎖	古河鉱業経営と繁栄	幕末・明治初期の衰退	再繁栄期	最初の衰退	初期の繁栄
------	-----------	------------	------	-------	-------

平鹿郡薄井村七郎左衛門が院内銀山を発見という。(薄井地方伝承) 関ヶ原の落武者村山宗兵衛が院内銀山を発見(院内銀山記巻)し、秋田藩は翌年から採掘に取りかかる。十分一番所開設。

この年までに、山神社・西光寺・正楽寺・誓願寺・玄徳寺・宝泉寺創建。銀山のキリシタン二十五名久保田で処刑。銀山衰退始まる。幕府への献納高七十九匁に下落(初期は百〜二百匁)。

銀山が初めて民間請負となり、この後は直営・請負を繰り返す。銀山極衰、産銀高二十八匁にまで落ち込む。佐渡の金銀吹分師中川左兵衛を招き、吹分法により金の生産を行う。

銀山を再び藩の直営とする。山神宮(金山神社)造営される。この年より十四年まで、産銀高二千匁以上となり、「天保の盛り山」と呼ばれ、日本となる。

銀山お抱え医師門屋養安、この年より明治二年までの日記を書き残す。産銀高一四三八匁、天保年代最高。人口三四二人。銀山労働者の珪肺病(よろけ)が増え、対策に悩む。

金名子たち銀引取価格上げの要求通らず、一同山を下るが、横手城代戸村氏の仲介により収まる(四年後にも同様の争議が発生)。秋田藩が院内銀山の経営を放棄、政府管轄となる。

銀山の経営を岡田平蔵と小野組に委託する。金山神社長床に白銀小学校開設(二十八年西三番に移転改築)。官営鉱山となる(十年工部省院内鉱山分局主任派遣)。政府雇いドイツ人技師が派遣され、近代技術による経営始まる。九月二十一日明治天皇が五番坑入坑(この日を全国鉱山記念日とする)。

銀山が古河市兵衛に払い下げとなる。この年から三十八年まで産銀高二千匁を超え、日本。プロテスタント宣教師ガルス、銀山において布教を行い伝道所を開設。

永岡鶴蔵が坑夫とともに、待遇改善のストライキを実施、要求の大部分通る(三十年にもストライキを実施して要求を通して)。産銀高四千百匁(五三七五kg)は記録として最高。

日本が金本位制採用、銀価格が低落し銀山繁栄にかけり。秋ノ宮樺山に水力発電所建設、長倉変電所に送電。五番坑内火災により百名以上の死者を出す。銀山衰退の度を増す。精錬所に煙害事件発生、補償問題で争議となる。衰退強まる。

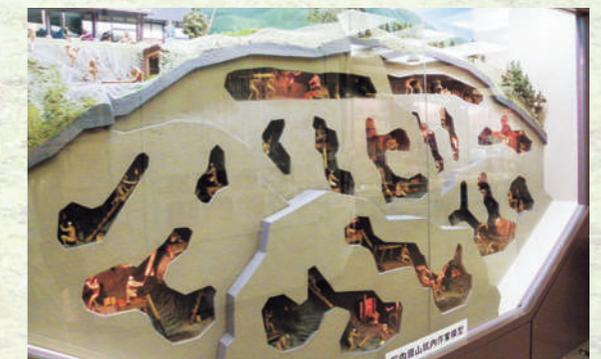
坑内の鉱石採掘中止(事実上鉱山閉鎖)。探鉱所設置、第二次大戦中採掘を行う。銀山関係の事業全部廃止し、院内銀山の歴史終わる。



鉱石



銀山まつり



院内銀山坑内作業模型

# 院内銀山のみどころ

## 1 三番共葬墓地



院内銀山で生涯を終えた人々の墓が500基以上ある

## 2 金山神社 (近代化産業遺産)



文政13年に建造されており、「近代化産業遺産」に認定されている

## 3 御幸坑 (五番坑)



明治14年9月21日、明治天皇が東北地方御巡幸の際に視察された

## 4 御膳水



明治天皇へお茶を献上するのに使用された湧水